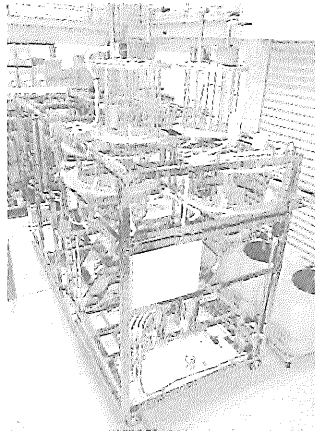


大脇商店

レアメタル回収に進出



レアメタル回収実証プラント

ネオジムなど高純度回収

中部地区大手鉄スクラップヤード業者の大脇商店(本社・岐阜県各務原市、代表・大脇富士子氏)は、レアメタル回収事業に進出する。このほど産官学連携でネオジム磁石からネオジム(Nd)、ディスプロシウム(Dy)を低コストで高効率、高純度で回収する技術を開発。今秋からパソコン、デジタルカメラなど廃小型家電の受け入れを開始するほか、来秋には回収プラント1基を本社工場に新設する。日当たり50キログラム(ネオジム磁石重量ベース)ペースで再資源化処理をする計画。将来的には、ネオジム磁石の循環型リサイクルシステムの構築で、鉄を含めた原料の取り扱い増加など相乗効果を狙う。

CMC、本社・岐阜県各務原市、社長・河邊憲次氏)と連携し、数年前よりネオジム磁石スクラップからレアメタルを回収する研究を進めてきた。湿式化学処理によりNd、Dyのほかフェライトも回収で

使用済みの小型家電回収した後の残材のき、二次廃棄物の排出削減が期待され、鉄を回収することによって、海外に輸出のみにとどまることされている。こうした背景に、回収過程で発生する環境規制物質である高濃度レアメタルを回収する技術を開発(以下ボロン)の処理が課

今秋から 廃小型家電を受入れ

題だったが、東京大学大学院工学研究科分科会(同事業の研究)で、廃液に含まれるBを排水基準値(10ppm)以下にまで低減が可能となった。これにより、同事業の実用化に見通しがつき、経済産業省が支援する平成23年度の「レアアース・レアメタル使用量削減・利用部品代替支援事業」に先月正式に採択されたことを受け、同事業を本格化させる。再資源化プラントの製造はCMCが担当する。来月に京都市内で開催されるレアメタル国際シンポジウム

題だったが、東京大学大学院工学研究科分科会(同事業の研究)で、廃液に含まれるBを排水基準値(10ppm)以下にまで低減が可能となった。これにより、同事業の実用化に見通しがつき、経済産業省が支援する平成23年度の「レアアース・レアメタル使用量削減・利用部品代替支援事業」に先月正式に採択されたことを受け、同事業を本格化させる。再資源化プラントの製造はCMCが担当する。来月に京都市内で開催されるレアメタル国際シンポジウム